

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

イシガメ科

ニホンイシガメを除く

科名 *Geoemydidae*



主にみられる種類と識別方法

特徴

三浦半島では、ニホンイシガメはスッポンを除く唯一の在来淡水生カメです。イシガメ科のカメ類は、山脈や海などで生息地が分断されることで新しい種が進化してきました。このため、複数の種類が同じ場所に生息することはまれで、雑種を作らないようにする体の仕組みが備わっていません。

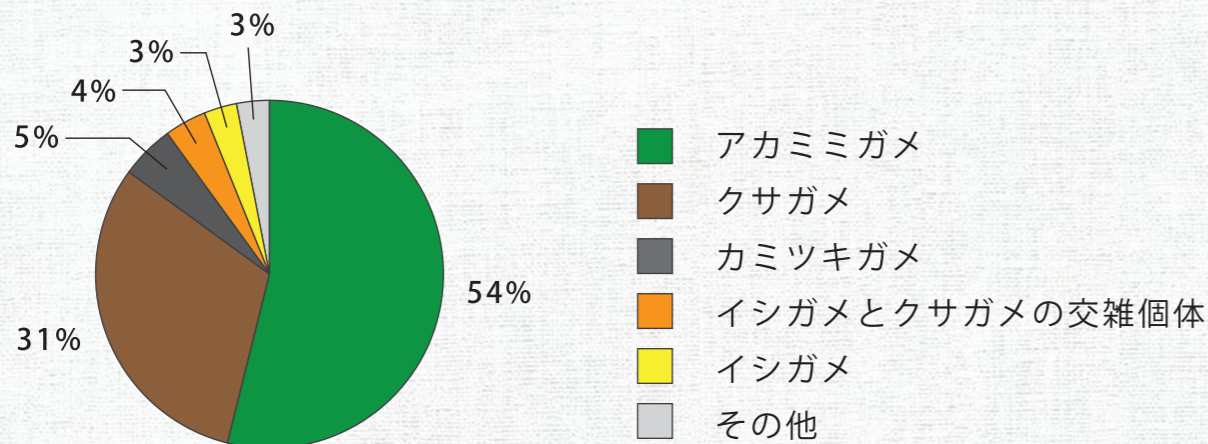
クサガメは古くから馴染みのある種類ですが、中国原産の外来種です。ニホンイシガメ以外のイシガメ科のカメは全てペットとして輸入されてきたものです。飼育下では100年程度生きるため、購入者がカメの

寿命まで飼い切れることはすくなく、多くが河川や池に放されています。ニホンイシガメは、様々な外来のイシガメ類と交雑することで雑種となり、今ではその遺伝子が維持できる状況ではありません。ニホンイシガメが交雑や生息地の破壊で激減したことで、ペット業界ではより安価に手に入るクサガメやヤエヤマイシガメの幼体の流通割合がさらに増え、問題を増長させています。

ハナガメのみ特定外来生物に指定されていますが、その他のイシガメ科のカメも生態系への影響はハナガメと同様です。

三浦半島での分布傾向

公園の池や農業用水地、河川など三浦半島全域の水辺で観察できます。ニホンイシガメは自然度の高い農村環境で多く生息するのに対し、外来カメ類は人が放してしまう機会の多い市街地中の水域に多く見られます。都市河川では、繁殖場所が無く一世代限りの生息地となっている場合もあります。



クサガメ



クサガメとニホンイシガメとの交雑個体

目の虹彩は黄色く、首に黄色い斑紋があります。成熟したオスは皮膚も目も全て黒色になります。



黒い各甲板が淡い色で縁取られます。成熟したオスは全身黒色になります。



成熟したオス



ハナガメ



特定外来生物

首に細かい縦縞の黄色い模様があります。



腹甲は淡い色で、縁甲には褐色の丸い模様が並びます。

ヤエヤマイシガメ



目と皮膚は淡い褐色をしています。薄い縦縞の模様があります。



腹甲は淡い色で、褐色のグラデーションがあります。

ニホンイシガメ



在来種

黒っぽい目に黄土色の皮膚をしています。



腹甲は黒一色です。

影響

野外での食性は植物性が強く、藻やヨシの新芽などをよく食べているため、数少ない水生動物の圧迫になっている可能性は低いと考えられます。在来種のニホンイシガメと交雑し、交雑個体も繁殖能力を持っているため、在来種の遺伝子汚染の影響が深刻です。

また、古くから輸入され続けてきたため、外来種であるとの認識があまり浸透していません。さらに、在来のカメが全くいなくなってしまう地域も多く、その場合外来カメ類を駆除するとカメそのものがいなくなってしまうので、カメ類のいない環境をどうとらえるかの検討も必要です。

在来種

ニホンイシガメ

在来種

水中から山林の尾根までに及ぶ広い行動範囲をもち、起伏に富んだ日本列島に適応するために進化した種類です。本州に生息する堅い甲羅を持つ淡水生カメの中では、唯一の在来種です。その広い行動範囲があだとなり、幹線道路や護岸工事で生息環境が破壊されて激減し、さらに人によって持ち込まれた他のイシガメ科のカメと交雑が進み、**三浦半島では野生絶滅状態となっています**。また、他のイシガメ科のカメと同様にペットとしても流通しており、他県で採集され販売されていた個体が捨てられ、定着する事例も出てきているため、野外で見られるニホンイシガメが全て三浦半島の在来個体とは限りません。



駆除の方法

初夏または秋にカニカゴを水際に設置し、魚のあらなどをエサに誘引捕獲します。その際、カメが溺死しないようにカニカゴの一部は水面より上になるようにします。カニカゴは毎日見回り、エサも毎日交換します。

在来種のニホンイシガメや、スッポン以外のカメは外来種です。交雑個体についても駆除対象とします。ただしニホンイシガメが全く生息しておらず、今後の生息回復も見込めない地区では、外来種のカメをどこまで駆除するかは判断の分かれるところです。例えば近年持ち込まれたアカミミガメは駆除し帰化歴の長いクサガメは残すといった判断がなされる場合があります。極度にコンクリート護岸化された水辺でなければ、日光浴の場所やエサなどの資源をカメ同士で取り合って不足するという考えにくいことです。今後ニホンイシガメの生息回復が見込める地域では、遺伝子汚染の原因となるクサガメの方がアカミミガメ等の交雑しない種よりもむしろ生態系への影響が大きいと言えます。



カニカゴを設置

エサを入れたカニカゴを水際に設置する。カニカゴの入口が水中にならないと捕獲できない。溺死しないように全部水没しないようにする。



翌日引き上げる



翌日引き上げる。カメだけではなく、エサに集まってきた様々な生物が入っている。駆除個体は、永年飼育するか、急速冷凍による殺処分をする。